第２回 美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会
議事録

■開催日時・場所

平成 27 年 7 月 24 日（金）14 時 00 分～16 時 00 分

美祢市役所 3 階　第 1、2 会議室

■次第

１．開　会

２．会長あいさつ

３．議事

（１）美祢市人口ビジョン（案）について

（２）美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）について

４．その他

５．閉　会

■配布資料

１.第 2 回 美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会　会議次第

２.美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）

３.資料集

４.美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 委員名簿・配席図

■会議風景

■出席者名簿

敬称略・順不
◎は会長、〇は副会長

区　分		氏　名	出欠席
委員	美祢市議会議員　副議長	岡山　隆	出席
	美祢市議会議員	竹岡　昌治　◎	出席
	公募委員	田原　義寛	出席
	公募委員	堀田　勝利	欠席
	カルスト森林組合　組合長	大呑　俊彦　〇	出席
	JA 山口美祢　常務	山本　善継	出席
	美祢市商工会　青年部長	齋藤　秀一郎	出席
	美祢市観光協会　事務局長	佐々木　秀介	出席
	山口県宇部県民局　局長	楠木　秀己	出席
	山口県立美祢青嶺高等学校　校長	古谷　修一	欠席
	山口銀行美祢支店　支店長	末永　博之	出席
	連合山口中部地域協議会美祢地区会議　事務局長	永井　政夫	出席
	山口新聞　支局長	平岩　和也	出席
	美祢市地域組織活動連絡協議会（母親クラブ）会長	田中　よし子	出席
	美祢市青年会議所　社会開発委員長	内海　満夫	欠席
事務局	総合政策部長	藤澤　和昭	出席
	総合政策部　企画政策課　課長	佐々木　昭治	出席
	総合政策部　企画政策課　課長補佐	岩崎　敏行	出席
	総合政策部　企画政策課　主査	石川　博之	出席
	ランドブレイン株式会社山口事務所　所長	八木　周吾	出席
	ランドブレイン株式会社広島事務所　主任	鈴木　将光	出席
	ランドブレイン株式会社広島事務所　研究員	駒井　達也	出席

■議事録

１．開　会

（説明略。事務局から開会の宣言が行われた。）

２．会長あいさつ

竹 岡 会 長　皆様から様々な意見を頂き、ようやく昨日、資料の整理ができた。急ぎ仕事で、事務局がご迷惑をおかけすることもあるかと思うが、よろしくお願いしたい。今回の人口ビジョン及び総合戦略は、まだ素案までには至っていないが、ここまでの整理で議論を頂きたいと考えている。

３．議事

（1）美祢市人口ビジョン（案）について

（説明略。事務局から資料の確認と人口ビジョン案について説明が行われた。）

竹 岡 会 長　目標人口については、美祢市総合計画の基本構想で 30,000 人と位置づけられており、承認されている。目標人口の 30,000 人は変えないという方向で議論を頂きたい。

楠 本 委 員　平成 31 年に 30,000 人は難しいのではないか。目標達成年度をずらし、もう少し時間をかけて 30,000 人を達成するということにはできないか。

竹 岡 会 長　おっしゃるとおり、10 年以上の長い時間をかけて達成するという考え方もあるかと思うが、本計画は上位計画に則して行う。総合計画後期基本計画の目標人口に係る専門部会においても、この目標人口に関して議論を重ね、30,000 人を設定した。変更はできないので、目標として 30,000 人を掲げていく。本審議会では、「仕事をつくらないと人は来ない」「人が来ないとまちはできない」という中で、人口をいかに増やしていくかを考えなければならない。

楠 本 委 員　この目標人口について、達成できる根拠・説明ができれば良いと考えている。例えば、社会復帰促進センターの収容人数を増加させていくというビジョンがあれば良いかと思う。

竹 岡 会 長　現在は 700 人程度の収容となっている。最大は 1,300 人施設として収容が可能である。

岡 山 委 員　現在、犯罪の数が減ってきている。景気の良いと犯罪者数は減少するので、軽犯罪の方を呼び込んでいくアピールを市から積極的に行って欲しい。定住してもらうためには、収容者とコミュニケーションをはかることが必要である。

田 原 委 員　産業構造に漁業があるが、美祢市のどこで行われているのか。また、平成 22 年と平成 24 年で伸びしろがあるのは、医療と福祉である。行政として新しく雇用をつくることができないか検討して欲しい。

事　務　局　漁業を営む方の人数は数名である。国勢調査の結果なので、通勤して漁業を営んでいる方も含んでいる。

田原委員　割合グラフ中に“N=”という形で、実数を示してほしい。

事　務　局　介護事業者への聞き取り調査では、今後伸びしろはあるものの、働き手がおらず、募集が少ないということをお聞きしている。介護難民という話も出てくるので、市としても担い手確保に努めていきたいと考えている。

竹岡委員　医療に関する担い手を育てる土壌を美祢市でつくることも必要だと思う。流入人口、流出人口をみると、多くの人が働きに美祢市に来ている。美祢市が住みづらいという評価なのかもしれない。また、農業法人についても、若者をどのように参入させ、維持をさせていくかを考えなければならない。

齊藤委員　犯罪者数が減少する中で、社会復帰促進センターを活用していく見込みがあるのか。

竹岡委員　社会復帰促進センターは刑務所ではない。２～３年後に出所する方や仮釈放をする方が社会復帰をするための施設である。出所、仮釈放された方を受け入れてくれる企業があれば、センター側は、センター生を送り出すことは可能だと聞いているが、センター生の方が、美祢市やその企業へ残ってくれるかどうかがポイントとなる。全国からそういった方々の受け入れを目指していくということだと考えている。

齊藤委員　犯罪者数の減は、誤差の範囲程度でそこまで魅力にならないのではないか。

岡山委員　医療・介護については、施設がなければ受け入れができない。準備が必要だと考えている。将来を見据えて段階的な受入を行っていくことが重要である。

竹岡委員　高齢者の受け入れということも考えている。社会保障費が増加するという考えもあるが、多くの高齢者に働いてもらい、社会保障費を抑えるという方法もある。

田中委員　高齢者も必要だが、子供が生活しやすい環境づくりも必要だと思う。近年、一人っ子が多くなっているが、経済的な理由もあるのではないかと思っている。

（２）美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略案について

（説明略。事務局から**美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略案**について説明が行われた。）

竹岡会長　戦略の骨組みについて説明があったが、細部にわたる具体的な内容はこれからである。委員意見で多くの意見を頂いたが、さらに説明を加えたい箇所等がご指摘を頂きたい。

田原委員　シルバー人材の活用は非常に良い提案だと思う。私にも 4～6 歳の子供がいるが、共働きで面倒を見ることが困難となり、仕事を辞めざるをえなくなった。特に病児保育の不足が大きな問題となった。看護師の資格を持っている人がいるのではれば、在宅での病児保育が可能となる。在宅介護は高齢者だけでなく子供にもあてはまる。フローレンスという NPO 法人では、在宅で子供を介護するサービスを行っている。

竹岡委員　具体的施策に入れて欲しい事項等あれば、ご意見を頂きたい。

平岩委員　先程も話に出たが、介護難民に関する対策や事業についても入れて欲しいと考えてい

る。

竹 岡 委 員　介護難民については、主に受け皿づくりを整備するということだと思う。必要になるかと思う。これについては、現在、協議を進めている。

楠 本 委 員　ジオパークについての具体的施策や事業は組み込まないのか。

竹 岡 委 員　現在、ジオパーク認定審査の視察対応を待っている状況である。その状況によるため、組み込む時期は遅れるかと思う。ジオパークは、保全と活用を図るものなので、認定後に、核となる施設を建設し、加工商品等の売り場の創出と合わせて、センター生の作業支援の場とする等、活用を図ると、雇用の場は大きく膨らむと考えている。

齊 藤 委 員　介護従事者の確保について、人材不足が問題となっているが、資格を持っている人は、多いはずである。人材の不足というより、応募しない、応募がないことのほうが問題だと考えている。報酬や待遇が良くないという点が大きいと思うので、これについて改善策を考えなければならない。

田 原 委 員　社会復帰促進センターのセンター生が職場体験で企業に出向くことは可能なのか。

竹 岡 委 員　現在のところは不可能。現在、検討をしている段階である。

岡 山 委 員　「子育てが楽しい環境づくり」とあるが、産み育てやすい環境づくりのことだと思う。この表現のほうがわかりやすいのではないか。また、どういった子育て支援があるかを親へ伝えることが重要であり、そのためにも、子育てケアプランをつくりこんでいく必要があると考えている。シルバー人材の活用による病児保育や介護も大切である。

「ジオパーク活動を通して育む郷土愛」については、美祢市に多く存在する歴史遺産とジオパークとを組み合わせて取り組んでいくことが重要である。例えばサインシステムの構築など、歴史遺産の価値を可視化して伝えることが重要だと考えている。

末 永 委 員　戦略骨子（案）では、美祢市ならではの取り組みが網羅的に掲載されている。ただこの中で単に30,000人の人口を達成すれば良いとは思わない。人口が増加すれば、再度都会への転出が起こると考えている。その流れは変わらない。そのときに、美祢として何を打ち出していくべきか考えた結果、高齢者が住みやすいまちを目指すべきだと考えている。また美祢市は洪水、津波、災害がない。これは高齢者にアピールできるものだと思う。これらの取り組みが充実すれば、社会復帰促進センターとの共同の取り組みもついてくるのではないかと思っている。

３．その他

竹 岡 会 長　皆さんの意見とアンケートの精査をして、次回はもう少し充実したものをお示しできるかと思う。

事　務　局　次回は9月上旬を予定している。そのときには素案をお示ししたい。

４．閉　会

（説明略。竹岡会長から閉会の宣言が行われた。）

以上